

2026年度大学入学共通テスト直前期の 出願指導のポイント

大学入学共通テストから国公立大学の出願までの期間はわずかしかない。生徒が納得のいく進路選択をするためにも、出願パターンをあらかじめ考えておくことが重要だ。2026年度大学入学共通テストの実施が目前に迫る今号は、同テスト直前期の出願指導のポイントについて考える。

欠かせない出願パターンの可視化

出願校の変更基準と変更後の 出願校を事前に想定しておく

2026年度大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の実施日から国公立大学の一般選抜の出願の締め切り日までは、わずか17日しかない。共通テストの結果が芳しくなかつた生徒が、共通テスト後から出願校の変更を検討し始めたものの、保護者と意見が食い違うなどして、出願校の決定に苦労するケースも少なくない。また、出願校を変更する生徒が多い場合は、特に出願指導の経験が浅い教師にとっては大きな負担になりかねない。生徒が納得のいく進路選択については大きな負担にならない。

択となるよう、合格したら進学してもよいと思える第2・第3志望校の検討は共通テスト前までに行つておきたい。

その際、出願校を変更する基準を、共通テストの具体的な得点や志望校判定で想定しておくと、共通テスト後の出願校の検討がスムーズになる。

例え、公立A高校では、12月に個人面談と二者面談を行い、図1のシートを用いて出願パターンを可視化している。そして、共通テスト後に実施する校内の出願検討会では、図1を用いて「基準点に達したので、パターン①の出願をします」「判定がよくなかったので、パターン②の出願をします」といった確認のみ

図1 公立A高校 出願シミュレーション、出願検討会資料

翌年再受験が可能な場合は、「共通テストの得点によらず、第1志望を貫くパターン」も許容。それが無理な場合は、「共通テストの得点や志望校判定でどう出し分けるかの3パターン」を検討する。				
■一般選抜 出願シミュレーション 出願検討会資料■				
□ 担任の先生との個人面談+保護者懇談会の結果を踏まえ、下記を記入してください。				
(1) 翌年再受験の可否… (可 不可)				
(2) 出願シミュレーション				
①：最も望ましい出願パターン				
設置区分	大学/学部/学科・専攻等			
	前	A大学/工学部/機械科		
	中	B大学/工学部/機械科		
国公立	後	B大学/工学部/機械科		
	⇒	②：次のパターン		
	⇒	③：その次のパターン		
※1から3へ変更する基準 共通テスト ●●点 または A大学（第1志望）がD判定				
※2から3へ変更する基準 共通テスト ▲▲点 または B大学（第2志望）がD判定				
※“安”の欄について：安全校として設定している大学に○をつけてください。				
[共通テスト利用入試]				
設置区分	大学/学部/学科・専攻等			
	安	大学/学部/学科・専攻等		
	私立			
[一般選抜]				
設置区分	大学/学部/学科・専攻等			
	安	大学/学部/学科・専攻等		
	私立			
ポイント① ポイント② ポイント③				

※学校資料を基に編集部で作成。

を行うことで、各クラスに数人はいる、進路に迷っている生徒の検討に時間をかけることができる、スマートな出願指導を実現している。

出願校の変更基準を決める

出願指導のポイント①

過去の入試結果データを基に 出願校の変更基準を決める

出願校の変更基準を決める際には、各大学の過去の合格者最低点が参考になる（図2上）。「 $\text{合格最低点} \times 1.1 \sim 1.2$ 」を基準点として、①基準点を超える最も望ましい出願パターンのほか、②基準点をやや下回る場合の出願パターンと③基

準点をかなり下回る場合の出願パターンの3パターンを設定したい。

出願校の変更基準は、共通テストの配点が高い場合は厳しめに設定、過去問題を解いた感触や記述式の模擬試験の結果から個別学力検査で逆転できそうであれば甘めに設定するとよいだろう。

出願を予定していた大学が合格者最低点を公表していない場合は、合格者平均点や過去の入試結果の合否度数分布（図2下）などを用いて、基準点や基準となる判定を決める。なお、共通テストの平均点は年によって変動するため、実際の出願では、事前に設定した基準点に平均点の変動を加味した上で

出願を予定していた大学が合格者最低点を公表していない場合は、合格者平均点や過去の入試結果の合否度数分布（図2下）などを用いて、基準点や基準となる判定を決める。なお、共通テストの平均点は年によって変動するため、実際の出願では、事前に設定した基準点に平均点の変動を加味した上で

判断する必要がある。その際は、大学入試共通テスト自採点集計サービスで提供するデータも活用してほしい。

●「取得できる資格」
教員免許など、特定の資格の取得を重視する場合は、目指す資格の取得が可能な大学から志望校を選ぶ必要がある。

生徒が希望する条件の整理ができたら、図3の「Compass」の大学検索や志望校Aーサーチを活用し、エリアや学年系統、合格可能性の判定基準などを指定して、候補となる大学を検討したい。条件にあてはまる「安全校」の大学も探しやすいため、活用してほしい。

●「出願指導のポイント②」
生徒が希望する条件を確認して、出願パターンを検討

生徒が希望する条件を確認して、出願パターンを検討

確認して、出願パターンを検討

変更後の出願校の検討が十分にできていない場合は、生徒が希望する条件を確認しながら、それに合った大学を、共通テスト前までに考えておくことが重要だ。特に次のような条件は優先して確認しておくよう、生徒に伝えたい。

●「他エリアも視野に入れられるか」

他のエリアに目を向けると、合格可能性の高い大学が一気に増えることがある。「自己から通える範囲まで」「全国どこでも下宿可能」など、条件を具体的に確認しておきたい。

●「学びたいこととの親和性」

入試の難易度だけを考慮して出願校を変更すると、その大学に入学後、学びの意欲が持続しなくなる恐れがある。第2志望以下の大学でも学びたいことが学べるのか、生徒が納得のいく出願となるよう、カリキュラムから授業内容、研究室やゼミでの学びまで、しっかりと

図2 出願校の変更基準の設定方法

■出願予定校が合格者最低点を公表している場合

合格者最低点・平均点一覧

大学名	学部	組織	種別	日替	普通	共通テスト	個別試験	総合
川大 医科	医系	一般	前	614.5	533.0	570	158.0	921.5
川大 医科	医系	一般	後	300.5	337.4	520	254.2	807.3
川大 医科	看護	一般	前	293.9	346.0	520	198.3	811.6
小樽商大 商	商系	一般	前	695.0	719.8	600	500	824.0
小樽商大 商	商系	一般	後	695.0	719.8	600	500	818.8

$$\text{基準点} = \text{合格最低点} \times 1.1 \sim 1.2$$

基準点を厳しく設定

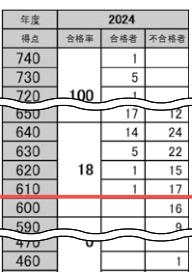
- ・共通テストの配点が高い
- ・2段階選抜の実施が予告されている
- ・絶対に翌年再受験できない
- ・記述式の模擬試験の結果がよくない

基準点を甘めに設定

- ・個別学力検査の配点が高い
- ・翌年再受験しても第1志望にこだわりたい
- ・記述式の模擬試験の結果がよい

■出願予定校が合格者最低点を公表していない場合

得点帯別合格率 入試結果／データネット ※ 1000点集計



入試結果の合否度数分布を基に基準点を設定

※大学の公表値とは異なり、入試結果調査の協力校のみのデータのため、やや厳めの基準とする方がよい。

※資料はいずれもベネッセハイスクールオンラインに掲載。

図3 Compass 大学検索 志望校 AI サーチ

● Compass > 判定シミュレーション > 大学検索 > 志望校 AI サーチ

生徒が模擬試験などで記入した志望校の、「設置区分」「エリア」「学問系統」などの情報を基に、生徒の志望に合致しそうな候補校を「挑戦校」「実力相応校」「安全校」に分けて提示することが可能。



※表示している画面はイメージです。

調べて出願校を検討するよう、生徒に促したい。

出願指導のポイント③

私立大学の併願は挑戦校、実力相応校、安全校をバランスよく

国公立大学が第1志望の場合、私立大学の併願校は図4のように、入試難易度ごとに挑戦校、実力相応校、安全校をバランスよく考えておきたい。

特に第1志願校の合格可能性の判定結果が芳しくない場合は、国公立大学の中期・後期日程で安全校を確保したり、

私立大学の受験校の数を増やしたりするなどの方策を考えたい。

また、私立大学は入試方式のバリエーションが豊富であり、得意教科・科目の配点が高い入試方式などでは生徒の強みを生かすことができる。

近年、国公立大学との併願を想定した多科目型の共通テスト利用入試を実施する私立大学が増加しており、その活用も検討したい。中でも私立大学独自の個別試験と共通テストを併用する入試方式は、私立大学を専願する受験生にとっては対策の負担が大きいことから実質倍率が低くなる傾向があるため、共通テストを受験する国公立大学志願の生徒には積極的に活用を促したい。

私立大学の併願校を検討する際に押さえておきたいのは次の3点だ。

「入試日が重複していないか」

受験直前に入試日の重複が発覚することを避けるため、受験スケジュールを提出させるなどして、確認を促したい。

「入試日程が過密ではないか」

入試が4日以上続くと、体力的に厳しくなると言われている。特に長距離の移動を伴う受験がある場合は、余裕を持つた日程となるように検討したい。

「入学金の二重支払いができるだけ避けよう」

入学手続きの締め切り日によつては、複数の大学に入学金を支払う必要が生じる。受験費用を抑えたい場合は、第1志願校の合格発表の後に併願校の入学手続きの締め切り日が来るよう受験スケジュールを組むのが理想的だ。しかし、国公立大学の前期日程の合格発表日以降に入学手続きの締め切り日が設定されている私立大学は限られている。そのため、私立大学への入学金の支払いが1校のみとなるような受験スケジュールを組むことが現実的だ。

なお、25年に文部科学省が各大学に出した入学金の支払いについての通知（＊）を受け、桃山学院大学など、入学金の返金制度を設ける大学も出てきている。併願候補校にそうした制度を新設する大学がないか、確認しておきたい。

図4 併願する私立大学の考え方

国公立大学志願者の私立大学併願戦略	第1志願の国公立大学 AB判定の場合	第1志願の国公立大学 CDE判定の場合		
	私立大学の併願校	挑戦校<DE判定>	実力相応校<C判定>	安全校<AB判定>
挑戦校<DE判定>	挑戦校・実力相応校・安全校をバランスよく 個別試験は3～4回程度	A大学 個別方式 共テのみ方式	A大学 個別方式 I 個別方式 II 全学部方式	C大学 個別方式 共テのみ方式
実力相応校<C判定>	D大学 個別方式 共テのみ方式	D大学 個別方式 共テのみ方式	E大学 全学部方式 共テのみ方式	F大学 個別方式 共テのみ方式
安全校<AB判定>				

共通テスト後の出願指導

共通テストの平均点は年によって変動するため、実際の出願にあたっては、事前に設定した基準点に平均点の変動を加味した上で出願校を決定する必要があります。共通テスト後の出願指導のポイントについては、『VIEW next』高校版 2025年1月号の本コーナーの記事をご参照ください。

https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-hs/article30794/ または上記の2次元コードからアクセスしてください。



* 「私立大学における入学料に係る学生の負担軽減等について」(令和7年6月26日付文部科学省高等教育局私学部長通知)

今後の大学入試に向けて学校に求められること

出願指導において大事にしたいモチベーションマネジメント

出願指導において、教師に求められる重要な役割の1つとして「生徒のモチベーションマネジメント」があります。多くの場合、本格的な受験勉強は高3の夏季休業前から入試本番まで、半年以上続くものですし、第1志望校だけでなく、併願校にも出願することを踏まえると、進路決定までに複数の入試結果に向き合うことになります。そのような状況下では、生徒一人ひとりの心理的な安定とやる気を維持することが、納得できる進路決定につながる鍵となります。今回は、モチベーションマネジメントのポイントとともに、具体的な対応策について解説します。

最初のポイントは、「長期間にわたる受験勉強への伴走的なサポート」です。近年、大学入試の多様化や選抜方法の変化により、受験のスタートから進路決定までの期間が長くなっています。かつては「前期日程(+中期日程) + 後期日程」がスタンダードでしたが、後期日程の廃止が続き、さらに学力型の総合型選抜の登場によって、「年内入試+前期日程」という組み合わせが広がっています。その期間、生徒は不安や焦りを感じやすく、モチベーションの低下や精神的な疲弊を招くこともあります。そのため、生徒との定期的なコミュニケーションを通じて心情を把握し、適切な励ましやアドバイスを行うことが求められます。具体的には、模擬試験の結果の確認や学習進捗の把握、小さな成果やその兆しへの着目によって、生徒の自己効力感を高め、長期的なモチベーション維持に努めることが重要です。

ポイントの2点目は、「併願校に合格した生徒の第1志望校に対する憧れやこだわりを薄れさせない」ことです。併願校に合格した場合、安心感から第1志望校の受験意欲が低下することがありますが、第1志望

校に挑戦することの意義や、進学先の変更による将来のキャリアへの影響などを丁寧に説明する必要があります。第1志望校の合格にこだわることが自分自身の可能性を広げる経験になることを伝え、挑戦意欲を喚起したいところです。併願校の合格という結果と、それに至った努力を認めつつも、最終的な目標を見失わないように導くことが大切です。

ポイントの3点目は、「合格を確保しておきたかった大学が不合格となり、不安や焦りを感じている生徒へのケア」です。そのような生徒においては、計画と今後の見通しにズレが生じたことで、精神的に追い詰められることがあります。まずは彼らの気持ちに寄り添い、結果の受け止めと、その背景を冷静に分析することが重要です。その上で、次のステップや代替案を具体的に提案し、ここからの再チャレンジについて前向きに考えられるよう、促しましょう。また、これまでの努力や成長を振り返る時間を設け、自信を取り戻すサポートも効果的です。励ましの言葉や、過去の卒業生の成功例の紹介を通じて、自身の可能性を感じさせ、前向きな気持ちを持たせることが、モチベーションの回復につながります。

総じて、出願指導においては、生徒の心理的な側面に配慮し、長期的な視点でモチベーションマネジメントを行うことが不可欠です。先生方の温かいまなざしと前向きな声かけ、そしてデータに基づくアドバイスが、生徒の不安を和らげ、自信と意欲を持続させる原動力となります。

(株)ベネッセコーポレーション
学校カンパニー 教育情報センター長
日山敦司 ひやま・あつし



第2回出願指導 WEB 研究会及びデータネットサイトのご案内

○第2回出願指導 WEB 研究会

特設ページにて、「D判定の生徒を前向きにさせ、共通テスト本番まで第1志望を貫かせるために入試データをどう使うか」を、具体的な面談の場面に即してご紹介しています。

リンク https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/seminar/2025/article/shutsukan2/tsukaikata/p2.html



○データネット 2026 大学入学共通テスト自己採点集計

2026年度大学入学共通テストの平均点や合格可能性判定基準などの情報を提供してまいります。

リンク <https://dn-sundai.benesse.ne.jp/dn/center/index.html>

